

I 総説

A 開設科目および卒業要件単位数

1 開設科目

授業科目は、基礎科目、専門科目、自由設計科目、および教職関連科目の4つの分野から構成されている。

2 卒業要件単位数

卒業に必要な単位数は**124単位**であり、基礎科目、専門科目、および自由設計科目の3分野から**第1表**に示す規定の単位数を修得しなければならない。

3 履修上の注意

履修に当たっては、後述の履修単位制限および2年次から3年次への進級基準に十分注意すること。

第1表 経済学科 開設科目および卒業要件単位数

| 分野 | 区 分 | | 規定単位数 | | |
|---------------------|----------|----------------------------|-----------------|-------------|--------------------------|
| 基礎科目 | 語学 | 英語 | 8 | | |
| | | 第二外国語 | 6 | | |
| | 基礎数理 | | 4 | | |
| 専門科目 | ゼミナール | | 12 | | |
| | 専門基礎必修科目 | ミクロ経済学入門・演習 マクロ経済学入門・演習 | 6 | | |
| | 専門基礎選択科目 | | 16 | | |
| | 専門選択科目 | | 34 | | |
| 自由設計科目 | 推奨科目 | 専門選択関連科目 | 20 | | |
| | | 法学関連科目 | | | |
| | | 教養科目 | | | |
| | | リテラシー科目群 | | WRD、IT科目 | |
| | | 教養科目群 | | 系列科目の一部(注5) | |
| | | キャリアデザイン科目群(注6) | | | |
| | 一般科目 | 全学共通教育科目 | 国際交流科目群(注7) | 18 | |
| | | | データサイエンス科目群(注8) | | |
| | | 他学部開設科目(注9) | リテラシー科目群 | | 外国語科目 |
| | | | 教養科目群 | | 総合科目、成城学、 系列科目の一部(注5) |
| スポーツ・ウエルネス教育科目(注10) | | | | | |
| 教職関連科目(注11) | | | - | | |
| 合 計 | | | 124 | | |

(注1)

(注2)

(注3)

(注4)

【第1表の注意事項】

- (注1) 基礎数理の規定単位数を超えて修得した単位は、推奨科目の必要単位数に充当することができる。
- (注2) 専門基礎選択科目の規定単位数を超えて修得した単位は、専門選択科目の必要単位数に充当することができる。
- (注3) 専門選択科目の規定単位数を超えて修得した単位は、推奨科目の必要単位数に充当することができる。
なお、専門基礎選択科目から充当した単位数がある場合も、その単位数と専門選択科目として配置された科目を修得した単位数とを合計して34単位を超えていれば、その超えた単位数を推奨科目の必要単位数に充当することができるものとする。
- (注4) 推奨科目の規定単位数を超えて修得した単位は、一般科目の必要単位数に充当することができる。
なお、専門選択科目から充当した単位数がある場合も、その単位数と推奨科目として配置された科目を修得した単位数とを合計して20単位を超えていれば、その超えた単位数を一般科目の必要単位数に充当することができるものとする。
- (注5) 系列科目は推奨科目と一般科目に分けられる。詳細は、「経済学科授業科目一覧表第4表(p.34)」を参照すること。
- (注6) キャリアデザイン科目群のうち「キャリア形成Ⅰ～Ⅳ」から2単位、「プロジェクト演習」もしくは「成城インターンシップ」から2単位の、計4単位のみ卒業要件単位として認められる。その他のキャリアデザイン科目の修得単位は卒業要件単位としては認められず、余剰単位の取扱いとなる。

履修規定

経済学科

2017年度以降入学者用

- (注7) 国際交流科目群のうち、「留学対策科目」と「留学準備演習」は卒業要件単位に算入することができない。
- (注8) 【2017・2018年度入学者】データサイエンス科目群のうち、「データサイエンス応用」、「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」および「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」は、卒業要件単位に算入することができない。
- (注9) 他学部開設科目は、8単位まで卒業要件単位として認められる。8単位を超えて修得した分は、余剰単位の扱いとなる。
- (注10) スポーツ・ウェルネス教育科目は、4単位まで卒業要件単位として認められる。4単位を超えて修得した分は、余剰単位の扱いとなる。
- (注11) 教職関連科目の修得単位は卒業要件単位としては認められず、余剰単位の扱いとなる。

B 履修単位制限

1 履修単位制限

この制度は、履修登録に当たって、安易な登録による科目履修の途中放棄の防止と学問上の興味や知的関心、時間的制約などを十分考慮した上での授業科目選択を促すために設けられたものである。

2 履修科目登録上限単位数

第2表 履修科目登録上限単位数

| 1年 | 2年 | 3年 | 4年 |
|----|----|----|----|
| 48 | 48 | 48 | 48 |

※1年次は、後期に英語（2単位）を履修するため、教務部で事前にダミーの科目を2単位分履修登録してある。

【第2表の注意事項】

以下に挙げる科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については各課程・科目群の項を参照すること。

- ・教職関連科目
- ・教職課程における「教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等」【2019年度入学者】
- ・教職課程における「教職に関する科目」【2017・2018年度入学者】
- ・キャリアデザイン科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目
- ・国際交流科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目（「留学対策科目」と「留学準備演習」）
- ・データサイエンス科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目【2017・2018年度入学者】

C 2年次から3年次への進級基準

2年次から3年次へ進級するには、基礎科目、専門科目、自由設計科目のそれぞれについて、2年次終了までに第3表に示す所定の単位を修得していなければならない。

第3表 進級基準

| 分野 | 区分 | | 規定単位数 |
|--------|----------|----------------------------|-------|
| 基礎科目 | 語学 | 英語 | 10 |
| | | 第二外国語 | |
| | 基礎数理 | | 4 |
| 専門科目 | ゼミナール | 2年次ゼミナール | 4 |
| | 専門基礎必修科目 | ミクロ経済学入門・演習 マクロ経済学入門・演習 | 6 |
| | 専門基礎選択科目 | | 8 |
| | 専門選択科目 | | 6 |
| 自由設計科目 | 推奨科目 | | 10 |
| 計 | | | 48 |

【第3表の注意事項】

- (注1) 基礎数理の規定単位数を超えて修得した単位は、進級に必要な推奨科目の単位数(10単位)に充当することができる。
- (注2) 専門基礎選択科目の規定単位数を超えて修得した単位は、進級に必要な専門選択科目の単位数(6単位)に充当することができる。
- (注3) 専門選択科目の規定単位数を超えて修得した単位は、進級に必要な推奨科目の単位数(10単位)に充当することができる。

なお、専門基礎選択科目から充当した単位数がある場合も、その単位数と専門選択科目として配置された科目を修得した単位数とを合計して6単位を超えていれば、その超えた単位数を推奨科目の必要単位数に充当することができるものとする。